

## 大阪工業英語研究会と私 — 徳永さんありがとう

宇賀治 潔

「記録魔」の前川さんによると、私が入会したのは1982年の後期だそうです。今から12年前……。家庭の事情でサラリーマンをやめ、運よく翻訳会社の社長さんに拾われて半年くらいが経過した頃のことです。当時の私は、フリーランスといっても、6ヶ月間の通信教育を「プロになるにはもう一步の努力を要する」成績で終了したばかりで、内容のよく分かった技術英文なら何とか和訳できる程度の実力でした。

そのようなとき、社長さんに薦められてこの研究会に見学に行くことになりました。自分の実力を知り、そしてそれを伸ばす良い機会だと思ったからです。しかし、初めて研究会に行った日はとても緊張していました。私はもともと人と接するのが得意ではなく気も小さいのです。それなのに実力に格段の差がある大ベテランの方々の中に飛び込んで行こうというのですから。そのような気持ちで教室の扉を開けたとき、すぐに話しかけてくれた人がいました。それが当時幹事をしておられた徳永さんでした。見ず知らずの、そして入会するかどうかさえもわからない若輩者の私を、満面に笑みをたたえて、「よく見学に来てくれました」と手をとらんばかりに歓迎してくれました。

ああ、こんなに優しく暖かい人がいらっしやるのか。。。。。

徳永さんとのこの時の出会いが、私の人生を大きく決定したのかも知れません。徳永さんのようないい人がいるこの会は素晴らしい

会に違いないと思い、すぐに入会を決心致しました。そしてこの思いは、出席回数が増えるにつれますます確固なものとなり、そして現在に至るまで、深まることはあっても、一度も裏切られたことはありません。水上先生の心のこもる熱心なご指導によって、また、皆さんとの切磋琢磨の甲斐もあって、私は最近ようやく翻訳者であることの自信と誇りが持てるようになりました。

今では翻訳スクールの講師もしています。スクールの生徒の中には、海外経験の長い人、海外の大学を卒業した人、通訳をしている人、英文科を卒業した人、何十年も英語にたずさわっている人などがいます。英語研の国で生活したこともなく、英会話ができるわけでもない、何の資格もないこの私を支えているのは、水上先生の指導のもとで、会員の皆さんと12年間勉強してきたという事実だけです。しかし、この事実は、表面的にどんなに輝かしい経歴よりも価値があると信じています。私はラッキーでした。この会を創設してくださった徳永さんありがとう。これからは、今まで勉強してきたことを、英語を愛し、翻訳を志す人達に伝えていきたいと思います。